

第4期第3回生涯学習センター運営協議会議事要旨

〔日 時〕 2018年7月17日（火）午前10：00～正午

〔場 所〕 生涯学習センター 学習室2

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：柳沼 恵一（会長）、岩本 陽児（副会長）、大野 浩子
白崎 好邦、鈴木 忠道、陶山 慎治、辰巳 厚子、中里 静江
古里 貴士、向井 美子、米倉 茂 以上 11名

事務局：塩田センター長、田中担当課長、大野管理係長、松田事業係長、齊藤主任（記録）

〔欠席者〕 太田 まゆみ

〔傍聴人〕 2名

〔資 料〕 ・町田市生涯学習センター運営協議会の役割について（資料1）

・生涯学習センター事業体系（資料2）

・事前提出意見（資料3）

・今後の生涯学習センター運営協議会開催日程（案）について（資料4）

・昨年度の生涯学習センター運営協議会事業報告に関する書式（追加資料1～2）

・「平和祈念事業」の開催について

はじめに

<事務局より（資料1）及び（資料2）の説明>（略）

1 報告事項

（1）センター長報告

・平和記念事業の開催についての案内について。

【プレイベント】

第1弾 7月22日 若手フォトジャーナリストの安田菜津紀さんの講演と安田
さんと都立小川高校の生徒さんとの座談会

第2弾 7月29日 ハンドベルコンサート

【メインイベント】

8月3日・4日 平和の灯としてランプシェードづくり

4日 親子ですいとんを作るクッキングイベント

韓国人留学生の列車事故に端を発して国際交流の絆を描いた
ドキュメンタリー映画「かけはし」の上映会

平和の歌声喫茶

5日 将棋の初心者向けの講座

6日・7日 アニメの上映と平和のお話会や絵本の朗読・紙芝居

8日 小学校高学年から中学生の親子を対象とした難民の問題について学ぶワークショップ

9日 市内在住の被爆体験者からお話を伺う催し

※期間中のイベント：折り鶴作製、クイズラリー・缶バッジの作成、昔遊び等。

※期間中の展示：戦時資料、市内の子供たちが描いた絵手紙、市民の方の戦時中の体験をつづった一枚のはがき、広島市の平和記念公園内に銅像や手記がある佐々木禎子さんのパネル、峠三吉の詩の展示等。

※周知方法：7月15日号「広報まちだ」、ホームページに掲載、ポスターの掲示、公共施設や近隣小学校でのチラシ、冊子「夏休み子どもフェア」での紹介。

※昨年度のイベントの参加者：延べ1,463人。

(質疑応答)

委員：町内会掲示板での周知を行っているということだが、下小山田町では見覚えがない。既に掲示されているのか。

事務局：市民協働を通じて各自治会にご案内している。市の広報についてまとめて送っている場合もある。

会長：地域によって多少遅れるなどのズレがあるかもしれない。

委員：平和祈念事業は毎年行われているが、インパクトがあまりない。

町田市は戦争中空襲に遭遇しているのか。

事務局：八王子の空襲のようなものはなかったが部分的には爆弾が落ちている。

事務局：非核平和都市宣言で、ミュージカルをやっているが、凶師や鶴川に落ちた焼夷弾による被害の様子を描いている。町田市の紹介ビデオの一部でも使われている。鶴川地域では焼夷弾を持っている方もおり3水で紹介していた。

委員：地域に密着という点で、町田の被災状況等も伝えていった方が良いと思う。

事務局：視聴覚室の展示で一部行っている。町田高校の近くに飛行機が落ちたことなど、市役所のロビーの展示スペースでは、企画政策課にて展示をしている。

会長：少しずつ内容を変えながらおこなっていて、今回は小中学生を意識しているように思う。

委員：小学校でのチラシはどのように配布されているか。

センター長：近隣の小学校町田第一、第二、第三～第四、南第三の5校に配布している。

委員：つまり全市ではないということか。

委員：補足だが、児童青少年課が発行している、全児童に配布する「子どもフェア」という冊子に子どもに関わる企画は全て網羅されて1冊の冊子としている。生涯学習センターの平和祈念事業も載っている。

委員：町田には戦車道があったり、帝都防衛の重要な東京を取り囲む一部を担っていたり、横須賀に弾薬を送る線路になっていたり、戦後になってもジェット機が降ってきて犠牲者がでたということがある。平和祈念にはこれらが含まれて当然だと思う。

委員：継続することに意味があるので、町田が続けていることは評価するが、単独の事業になってしまっている。町田の平和教育についてはご存じか。学校の平和教育などと連動・連携すると小中学生の来館者が増えるきっかけになると思う。ある町の例では、子供たちが戦争体験を聞き取って作文を書くという課題があって、そのような作文を発表する場を設ける、といったように、何か学校の教育と関連付けするといいいのではないか。

事務局：例えば、生涯学習センターに関わりの深い絵手紙の先生が学校支援ボランティアさんをやっている、平和に関する教育の一環として絵手紙を行っていて壁面の展示の準備を行っている。

会長：ある程度おこなっているということだと思うが、学校教育の中で行われている平和教育とコミットメントしていくと、もっと深めていけると良いのではないかというご意見である。

委員：周知について「マスコミ、ミニコミ誌等」とはショッパー等の地方誌で行っているということか。

センター長：その通りである。また、報道各社にファックスリリースを入れている。

(2) 町田市生涯学習審議会の議論について

委員：6月28日に第4期の第1回目の生涯学習審議会が行われた。会長を務めておられた菌田さんが引退されて、有名な文学館の運営審議会の深沢さんが入られた。会長に吉田さん、瓜生さんが副会長となった。各施設の細かいことについては各施設の附属機関で行うが、全体にかかわる部分を生涯学習審議会が扱う。

大学の授業の都合で欠席しなければならない場合、代理出席が可能か問うたところ、個人名で委嘱状を出しているため、代理出席はできないということであった。

第3期の答申について、おさらいをし、行政の今後の在り方・施設の今後の在り方・新たな生涯学習事業・施策についての諮問ということが昨期の諮問内容であったが、それに対する答申の概要はホームページでも読めるので是非ご覧いただきたい。生涯学習審議会への諮問は次回になります。

文学館について特に取り上げたいということで、吉川様からのご説明をいただいた。情報発信、意見発信について、Twitterをしているが、個人的な職員の意見が流れないようにしているというような話があった。私からは運営協議会の正副会長が決まったことと、主要な論点3つほどをお伝えした。

(3) 東京都公民館連絡協議会の活動について

委員：前回6月19日から今日までの活動内容について。

第3回委員部会では、9月1日に行われる平成30年度委員部会第1回研修会について討議し案内チラシの確認をした。講師依頼について、日本社会教育学会会長、千葉大学名誉教授の長澤成次先生にご承諾をいただき、7月12日には事前の打ち合わせを行った。

第2回研修会は、平成31年2月3日の日曜日に東大和市中央公民館で第55回東京都公民館研究大会の開催が決定されている。午前中が基調講演、午後からは課題別集會が行われるが、委員部会としてはこの課題別集會の1つの分科会を担当することになっている。そこでのテーマについて検討中で、加盟都市のなかから3団体事例発表をしてもらい、それについてグループディスカッションを進める方向で検討している。メインテーマとして「どうなる？どうする？社会教育～連携・協働・参加の成果を発信しよう～」という案が出ており、こちらにはほぼ決まりそうである。

会長：研究大会では社会教育の大きな流れが少しずつ変わってきているという現状を踏まえ、我々がどう課題を解決していくかという大きなテーマを扱う。また分科会では各市から同様の委員も来られて交流を図ることができる。お時間の許す限り、ぜひご参加いただきたい。

2 議題

(1) 運営協議会の今後の進め方について

- ①事前意見の説明
- ②テーマの絞り込みについて
- ③今後の進め方

会長：事前に皆様からご意見をいただいておりますが、皆様にはお配りしておりますが、さらに各委員から三分以内でご発表いただく。意見の言いつばなしではなく、プロジェクトリーダーになる心積りでご発言いただければと思う。

委員：私からは、近隣自治体公民館との相互連携を進めるについての提案である。町田には公民館が1館しか無い。現実的にはここに来るよりは、近くの相模原の公民館を利用の方が良いかもしれない。第3期ではせっかく意欲的に地区協議会との連携とあったものの「ひと・もの・かね」の補充は難しく、現実と乖離したことをいっても私たちも行政も意欲をなくしてしまいそうである。したがって、なるべくコストのかからない制度設計はどうかということである。お互いの行き来をオープンにすることで、地域防災の視点「流域」を単位とすることの有益性が指摘されている。基礎教

育保障の必要が指摘されているが、読み書きがご不自由な方は地元で知られたくないので、地元での講座よりも近隣市の講座に出席できることで実効性を挙げられることが期待される。同じ社会教育施設である町田市立図書館ではすでに相模原等近隣市との相互利用協定を結んでおり、近隣自治体の公民館視察などを通じて連携が可能かどうかを検討してはいかがかという提案である。

委員：1期目のときも議論が広がりすぎてしまい、今回も結局これらの意見をどう集約するかを議論するだけで一年かかりそうである。私は、施設再編の中、生涯学習センターが知名度をあげて市民に必要とされる存在となるようにはどうすればよいかという思いが強いので、そのためには、抽象的な議論よりは具体的に、「市民大学」を町田市の人々に支持され必要とされる大学にするためにはどうすればよいか、つまり「市民大学」という具体的なもので、市民に愛される生涯学習センターにしていくためにはどうすればよいかを議論した方がわかりやすいのではないかと思う。

委員：いろいろな世代の人が学びあえる場があるとよい。若い人になかなか伝わっていかないという継続性のことを考えると、未来につながるためには生涯学習センターはなにをするべきなのか考えていきたい。

日頃思っている事は、前回も申し上げたが、「まちチャレ」のハードルが高いということ。「講師派遣制度」もなくなってしまったが、「まちチャレ」は連続講座でなければいけない。もっと市民が使いやすい制度があればと思う。

それから、貧困家庭の子供たちとつながるにはどうすればよいか。「夏休み子どもフェア」のパンフレットを見て、申し込みをしてくるのはみんな親である。そういう親がいない子供はどうなるのか。講座を受けられるように、大人たちや子ども家庭支援センター、生活援護課でも学習支援を始めていると思うが、いろいろな機関に講座の紹介をしてもらおうなど、連携して子どもたちの未来につながる方法があればよいと思った。

委員：私の資料を見て頂ければと思うが、4の(2)～(4)がテーマで、4(1)の部分が議論の進め方「市民の目線で議論を進めるべき」、冒頭から1、2、3が「日頃思っている事」に対応している。要は、市民目線で議論すればもっと解が出てくると思う。講座の企画、情報発信の方法について、市民目線だと、どうしてこんなことをやっているのかと思うことがたくさんある。皆さんのコメントを読んでいて皆同じことを思っているということがよくわかった。次回が事業分析だということだが、Q&Aの時間は持っていただきたい。何故なら認識の共有が一番大事だと思うからである。皆さんが思っている疑問点を解消し、どう議論していくかというプロセスが絶対に必要だと思う。

一番関心のあるテーマとしては、4(3)。縦の展開が今何もないので、「生涯学習にふさわしい、講座の縦展開とスパイラルアップを図れる仕組みづくり」が大切である。

委員：私は「魅力ある事業とは」を論議したいと思い、挙げさせていただいた。行政にい

た時に、どこも同じだと思うのだが、集客のために、どうすれば市民ニーズを把握できるだろうか、周知の方法はどうすればよいか、事業の編集はどうすればよいか、というのは果てしないテーマであった。皆様も提示されているように、他市との連携や市内の他機関との連携は必須のことだと思う。私が図書館に勤務していた時、近くの公民館と連携をして、NHKの歴史ドラマにあわせて公民館の事業を行い、図書館に関連書籍や作家の作品を集めて展示した。また、保健所と連携して、乳幼児健診を行う会場に赤ちゃんの為のブックリストを提示するといった、様々な情報発信も試み一定の成果を得た。生涯学習センターでも、連携を踏まえた上で、市民のニーズをタイムリーに捉えて事業を組み立てていくことが必要ではないかと思い提案した。

委員：市民がより多く講座に参加していただくために魅力ある講座を作っていくことが大切だと思う。年代・性別に合うような講座とは何だろうということをストックアパンドビルドで講座を作り直していくという方向性について議論していきたいと思う。

会長：欠席の委員について。①市民大学、ことぶき大学の今後、②世代間交流を踏まえた学校との関わり、連携。③人気のある講座・イベントを各地域で実現するには、という3つを挙げていただいている。

委員：1点目は、若者や子ども達がいじめや貧困等今の社会に生きづらさを感じていることが心配である。その社会をどうするのか、という問題はあるが、子どものころからの社会教育が大切だと思うので、我々としては、どういう子供たちに向けてどういう支援が出来るかを議論いたしたいと思う。2点目は、生涯学習センターを次の世代に残すためには何をつなげていきたいかを考えたい。3点目は、今社会教育を取り巻く環境が難しい方向になっている状況を認識する必要があるなのでその辺について話し合ってみたいと思う。

委員：議論したいテーマは以前から言い続けており、地域に生涯学習センターをつくることが出来ればそれに向けて議論していきたい。子どもの貧困や高齢者の被害額が全国1位という問題もある。教育というカテゴリーで生涯学習センターが委員の一人になってもらえるとよい。町田のシンボリックな場所は学校だと思うので、卒業生を中心に学校を拠点とするのが望ましいと思う。予算や人の問題については、最初に言っておいてもらえると議論の幅が具体的になると思う。委員一人一人が具体的プレーヤーになり、行動してやる必要があるのではないか。また、ことぶき大学については、限りなく厚生労働省がやっている総合事業に似ているので何かコラボが出来ないか。それから、生涯学習センターに地域担当をもうけて、職員の皆さんが地域に出ていく仕組みを作ればと思う。

委員：私は前から申し上げておりますが、市民大学には魅力がない。毎年同じパターンではつまらないので、人は集まらない。出口を作り、他部局とのコラボをすともっと面白い講座ができると思う。実のある講座を作りたいというのが私の取り上げたいテーマである。

委員：皆さんから送っていただいたご意見や資料を読ませていただいて気になった点は、皆さんの挙げられたテーマは多様性があるが、第3期の地域の学習支援という報告書はこれで終わりではなく、出発点だと思うので、第3期である意味の取っ掛かりを出した以上、続きをやる必要はないのだろうか、フォローアップの必要があるのではないか、ということが気になった。第3期の報告書の扱いをどうしていくかを議論した方がよいのではないかと思う。

会長：ありがとうございます。皆さんのご意見をもとに、事務局と打合せして、テーマについてのコメントを出させていただいた。具体的なテーマであったり、大きなテーマであったりとレベルがそれぞれ違うが、私なりに7つぐらいに分類してみた。

「1 生涯学習センターの将来の在り方」これは、公共施設の再編、社会のあり方なども踏まえて考える。「2 市民大学・ことぶき大学の講座」は、市民目線で魅力ある講座とは何かということ、「3 地域学習支援」これも提案だけで終わるのではなく、フォローアップの必要があるというご意見である。「4 外部自治体との連携、庁舎内、外部企業等の連携」「5 世代間交流と学校との連携」これまで議論されてこなかったテーマで、これは少し難しいと思う。「6 市民向け情報発信」では、どうしたら市民に届くのかという情報発信の在り方を検討する。「7 学習権保障」は、学習にいろいろな困難を抱えている方への事業を考えていくことも重要ということである。

これらを1つのテーマに絞るか、あるいは3つぐらいのテーマをあげプロジェクトを組んで適宜この場で発表していくという方法もあると思う。

テーマの絞り込みについて何かご意見はあるか。

委員：1・2・6の3つに大別でき、3・4・5・7は1番に含まれるのではないか。1番にした場合に、どのような議論になるか、疑問を感じる。大きなテーマなので、1番には3・4・5・7を含むことになってしまう。

委員：1番はご指摘いただいた通りだと思う。2番から7番にかけては、まず行政の方で予算がどれほどか前もって教えていただけたらよいという話も出ていた。例えば3番で、地域学習支援の課題解決では、予算が右肩下がりの中で実現可能なものか、ということは念頭にはおいて議論をした方がよいと思います。

会長：1つ大きなテーマで「生涯学習センターの将来像」があり、「市民ニーズに沿った講座」と、「情報発信」という、この3つに分けてということではいかがか。

委員：すべて盛り込んで絶対実現できないので、特化したテーマで議論を深めてはいかがか。

委員：今日決めなくてはいけないか。次回が事業分析ということだが、認識共有の場がもう少し必要ではないか。「これでいこう」という認識の共有の時間を設けるというプロセスは必要ではないか。

委員：今のご意見を聞いて思ったのだが、ここ生涯学習センターに形として現れるのは講座である。議論の大前提です。初めての方もおり、ちょうどいいところに、次回事業

評価があるので、事業評価が終わってからの方がいいのではないか。テーマの選び方を今回議論してはいかがでしょうか。それから、テーマの決め方、講座そのものの議論もあれば、例えば学校を利用出来たらという思いがあるが、そういった仕組みそのものについての議論もあると思う。同じ土俵で議論するのは難しいと思う。

会 長：切り口をどのように決めるかということによいか。

委 員：我々の置かれている立場がわからない。予算が減り、担当職員も減っていく中で、町田市も高齢者が増え、ニーズは膨れ上がっている。限られた予算、限られた人材で継続可能な生涯学習のあり方を考えるというのであれば、運営や、場所や、テーマについても私なりの結論としては、地域に任せてほしい、ということだ。やり方によっては、予算はもっと増えるし、人も増える、というのであればそれに向けた話し合いをすればいいが、これからの生涯学習センターの方向性が見えている部分があるのであれば、まずそれを示していただきたい。市民協働推進課などでは、「予算も人も無くなっていくので、地域にサポーターを作ってテーマを決めて具体的に地域でやってほしい」と言われるのだが、ここは随分余裕があるように思える。予算が無くなり、人がいなくなっても、「クオリティを上げていくにはどうすればいいのか」という話し合いをしているようであるが、もっと講座の内容を良くしていくにはどうすればよいかという意見を求められていて、「やる人がいないので皆さんでやってください」と言われている気もしない。置かれている立場を理解した上で議論を始めた。

会 長：テーマとしてはどのような切り口になるか。

委 員：どの会議に出てもそうだが、「予算はこれだけで行政としてはこれだけで皆さんの望むものはこうなので、皆さんの中で議論して埋めて行って欲しい」ということがあった上で、学識経験者としてはどういう意見で、具体的に地域で活動している人は何を地域に言っていけばいいとか、それぞれの立場で見えてくることもあると思う。「学ぶ」という環境を継続するために予算が少なくなっている中でどうするかということを決めませんか、という方がよい。

会 長：予算の今後も含め行政の考える方向性もあるが、「将来像」ということか。

委 員：学ぶ環境をどうにかしようということになると、生涯学習センターや教育委員会だけではどうにもならないこともあると思うので、「民間企業がスポンサーになる講座があってもよいか」とか、他部署と連携して「子供の問題はどうか」「高齢者の問題はどうか」という他に応援を求めていこうといった時期に今あると思う。変わっていかないといけない時期にある。どういうプラットフォームに立たされているのかを共有したい。アクションレベルで、ここで話し合われることというのは、市民に向けてということになる。行政に向けてこういうことをやれば予算が付きますということがあるのであればいいが、それが見えにくくなっている以上、市民一人ひとりにプレーヤーになってもらうためにここで話し合われることは市民の人に見てもらいた

いということになるべきだと思う。前期の報告書が、最終的に「センター長に向けての報告書」となったのがよくわからない。市民の皆さんと共有するための話し合いの場であるべきで、市民に向けての文言であっていい。クラウドファンディングや、ふるさと納税等、色々と財源の確保の方法はあると思うのだが、町田市の財源の中から予算配分をもらおうとするわけだから、やはりかなり難しいと思う。最後の最後で「行政の都合がある」と言われてしまうよりは、最初に財源や方針等の提示があったほうが良いと思う。

委員：今言われたのは「運営協議会の進め方」ということではないか。運営協議会というのは生涯学習センターを運営していく上で大きな柱の1つであると思う。協議会自身、方向性を知った上で、どういうことを話し合っていけばよいかということもあると思う。

会長：では8番目のテーマになるということか。

運営協議会の役割はセンターが実施する事業、講座・講演会等の内容及び成果に関して協議することということですので、その辺の整合性がとれるだろうか。

事務局：運営協議会の進め方というテーマでは、運営協議会の取り扱うテーマとしては少し違うと思われる。

委員：都公連でも「答申はしたけれどその後はどうなったのか」という心配事はどこの公運審でも同様にあり、どのように運営していくのかということは大変関心のあることである。

委員：では、「生涯学習センターの進め方」でどうか。先ほど叱咤激励、協働という言葉があったが、「運営協議会の進め方」が具合悪いのであれば1つの方法だと思う。

意見の中に「はじめに教育委員会や行政の方向性を伝えて欲しい」とあったが、私もこれが一番だと思う。皆さん同様に思っている。

会長：生涯学習センターの将来像的なところで、予算がどのようになっているのかを行政の方から示していただきたい。

委員：将来像ではなく、進め方です。

委員：何年間も我々が話し合ってきたことが、1つも実になっていない気がする。話し合った内容を生涯学習センターはどのように汲んでくれていたのか。3期の報告書もそうだが、前期はもう間に合わなかったということだったが、後期はどうだったのか。同じような事業をやっていれば役人としてはいいが、市民に対しては不評。評価した内容を取り込んでいってきているのだろうか。人事異動もあり、そこで終わりになってしまっているのではないか。これは質問です。テーマが決められないので。

会長：繰り返しますが、運営協議会は公運審とは違い、「諮問・答申」はありません。職員を叱咤激励する応援団であり、将来像を提案し、職員と共に進めていく場なので、我々が自主的にテーマを決め自由に議論し、提案することができる。

事務局：6年間とおっしゃったが、報告書としては2回。1つ目が市民大学。プログラム委

員の選び方も変更を加えながら、プログラムをどのように変えていくのかということについて、市民大学の将来像をつくろうというところで、運営協議会では難しいので、市民大学を検討する会を作るという話も出たが、協議会を作るにあたって誰を選ぶかという問題が生じ、ストップしている。選考要綱も5年経って変わりはじめています。健康学などは目新しいことはないが、そこを求める方もたくさんおられて人気が高い。アウトプットについての必要性については、環境学などで皆さんのおっしゃる要望の振れ幅の中で仕事をしていることをご理解いただきたい。第3期の報告書では、地域展開をどうするかという話になった。2015年に行われた市民参加型事業評価の中で「町田市に公民館は1館しかないので地域に出ていくプログラムをつくること、大学との連携の必要性、について意見を言われた。これを受けて、現在地区協議会が10個あるが、今行っている鶴川地区協議会との連携を取っ掛かりとして、これからは他の地域に広げて、3期の報告書に少しでも応えられるようにしていきたい。人をどう配置するかという問題もあるが、地域の人がコーディネーター的役割をするという方法も考えられる。

委員：地域連携についてはよくわかったが、結局鶴川以外にまだ広げられていないという印象がある。また、市民大学については、プログラム委員と運営協議会のお互いの話し合いの場があったほうが良いと思う。

会長：それでは、1から8まで出たので、次回までに二つだけ、主体的に取り組んでみたいテーマをお知らせください。そのような進め方でどうか。

委員：二つ決めるにあたって事務局から情報をもう少しいただきたい。地区協議会との連携にしても、なかなかそれを裏付けられるようなスタッフの確保も予算もできない。

委員：我々は今回意見を書いたが、これに対して、事務局側から何かしら、例えばそれは予算的に無理ですよ、とか、何かお答えいただきたい。キャッチボールが必要である。

委員：質問ですが、「学校拠点」について、良い考えと思いましたが、学校がどれくらいかかわれるのでしょうか。

事務局：こちらから働きかけない限り、学校からは何もかかわってこないのが現状です。国の動きによっては変わってくることもあるかもしれない。

会長：では、事務局側から予算の面などの情報も提供していただきたい。テーマについては一応そのように、1～8のテーマを精査しながら進めたい。

3 次回「事業分析」について

事務局：お配りした評価シート、分析シートに沿って進める。各担当の係長から事業を説明した上で評価をしていただく。

会長：1期から2期というのは、運営協議会では毎回この評価に終始し、運営協議会の意見という欄をまとめてきたが、これでは一個一個の事業は見えるが全体が見えにくいという意見があり、年2回に変更した。「事業評価」という名称については、「評価」

もおこなうが改善策も含めて提案するということもあるので、「事業分析」に変更する。次回上半期の事業についてといことで、膨大な量となり、一日がかりの作業となる。

事務局：主観的な質問ではなく、データに基づいた回答のできるものをいただければと思う。

事前にご質問いただくと、十分にお答えできる。資料は早めに送付いたしたい。

委員：受講者の声も資料につけていただきたい。

4 第5回以降の日程案について

- ・全員が出席可能な日はなかったので事務局で調整して日程を決めた。
- ・10月は「生涯学習センターまつり」のため行わない。

5 その他

- ・2年に1度おこなわれる「貸出ロッカーの申し込み」について。
→9月7日（金）14時～「抽選会」の立会人として委員2名を決定した。

次回 9月18日（火）15:00～17:00 生涯学習センター視聴覚室